

令和6年 第1回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 令和6年3月7日(木)  
 質問者 日本共産党 真下 紀子 議員  
 答弁者 知事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p><b>五 防災対策等について</b></p> <p><b>(四) 原子力防災対策について</b></p> <p>能登半島地震では、放射線防護施設やモニタリングポストなどが損壊し、従来の原子力防災の前提が崩れました。また、外部電源の停止、海底隆起による地形変動等により冷却が継続できるのか、極めて厳しい被害を目の当たりにしました。過酷事故には至りませんでしたが、安全神話はまたもや崩壊したと考えます。泊原発は、迂回路のない道路が避難経路となっているなど、能登半島と類似すると指摘がある積丹半島にあります。現実起きた被害を踏まえると、計画で想定されている屋内退避ができない事態への対応では不十分であり、原子力防災計画の見直しが必要と考えます。道はどのように対応していくのか、伺います。</p>	<p><b>(知事)</b></p> <p>原子力防災対策についてであります。原子力災害が発生した場合の避難経路については、あらかじめ複数を確保するとともに、陸路が制限される場合には、道路啓開に着手しつつ、状況によって、自衛隊などの実動組織の支援を受け、海路や空路等による避難を行うこととしております。</p> <p>また、家屋の倒壊等により屋内退避が困難な場合には、退避が可能な指定避難所や、あらかじめ設定しているUPZ外の避難先に避難することとしております。</p> <p>道としては、この度の能登半島地震を踏まえ、地域防災計画などについて点検を行うほか、原子力規制委員会では、屋内退避に関する課題について検討しており、こうした国の動向も注視し、原子力災害対策指針が改定された場合には、関係町村等とも連携し、適切に対応するなど、今後とも、住民の皆様の安全・安心の確保に取り組んでまいります。</p>